



# ピクタインダカン

(おさみがりにぼし)

第10号

発行日 2017年8月9日

発行人 矢代 しず

秋田市御野塩7-1-29-305

## 歌&ポエムリーディング

七月の太陽が

陽気にきらめく昼下がりに

宇宙的なひろがりを感じさせる絵画

が飾られたとある美術館

観客は二十八人

朗読のはじまりを待っている

期待と不安が交錯するなか

声を探しながら 静かに読みあげるわたし

渴いた口から飛びでた言葉は

床を転がり

座席をめぐる

詩は

地球の片隅で

観客との交感を愉しんでいる

## 兄

(兄<sup>あんこ</sup>) 死んだ！

五月五日の明け方

悲しみ 哀れみの入りまじった姉の声を  
ところが耐える位置で受けとめた

悼むところを引きずりながら

車でみた鳥海山は荘厳な白装束

母が兄を抱いているよう

(母さん 兄<sup>ど</sup>ご呼ばたなだが？

不意にこぼれ落ちた

兄の七十五年の生

裏の畑には

その日に耕した畝が

まっすぐに残されていた

つめたい灯りのなかで

からだは透けてみえる

蠟燭も花も 白色

抹香の香りは 滅<sup>け</sup>紫

わたしの背後で飛びかう

死者を傷つけることばの蛾を

叩きおとす 姉

お別れの日

講道館五段の黒帯を締めて

兄は特大の柩におさまった

(兄 つらいどぎ助けてくれで

ありがとう！

甘<sup>あ</sup>みやもの好きなだけ食べれな

父<sup>つあ</sup>と母<sup>あは</sup>と仲良<sup>あは</sup>ぐお茶っこ飲んでけれ

けれど

聴けなかった

兄の最期のことばが

わたしを眠らせない

## 川と少年

今日も

少年が川に話しかけている

けれども

川は応えない

感じることは

馴じむことは

溶けこむことは

いくら呼びかけても

川は見向きもしない

喜びそうなことは

切れのあることは

水らしいことは

どんなに繰り返かえしても

川はことばを覚えない

ある日

あ……か……わ……

川は少年を真似て

とつとつと話した

ぼく

しんでる\*

どこから きて

どこ いく？

川の眼は好奇にかがやき  
会話を楽しんでいる

\*澄んでいる、の意

## 解体

へ解体するから　すぐ来て

友人からの電話

解体？

友人が大きな箱を開けた  
人の腿？　死んでる？

へ当たったのよ　抽選に！

人肉色の塊は

十勝骨付ハム（ウデ）

丸ごと一本　4840g

友人は道産子

へよく鮭を解体したのよ

説明書を見ながら

友人がウデに一気に包丁を入れる

怖い！

中央部に切り込みを入れ肉を切り取る  
弓形の骨に沿って肉を削ぐ  
と　わたしの腕も痛む

わたしの外にある哀れ  
わたしの内にある欲望  
わたしは死んだ豚を  
もう一度殺してしまった

取り出した骨は

櫓のかたち

豚の魂は

遠く揺らめく水の岸へ  
舟を漕いでいった

徒然のエチュード VIII

1

部屋を暗く感じる

目が疲れる

蛍光灯の球を取り替える

よく見えるように！

洗面所だけは

取り替えなかつた

よく見えないように！

2

「熊出沒」

の文字が

目に突き刺さる

鋭い爪で刺青を入れるには

対価が大きすぎる！

3

年齢を捨てる

楽しみを捨てる

4

わたしは凧いでいる

海

ことばを

存分に泳がせる

5

テーブルの上に

ケーキがある

孫もおだてりや

山にのぼる

6

走っている時は 四十代

あの時は 二十代

鏡は見せないでネ

あなたのあの時は いつ？

変なこと想像したのは

だれ！

7

オレンジ色の

とある窓口

口座移動に

待つこと 一時間半

(法人は人格なき……)

の書類を見せられ

結果 ダメ

あずき色の

とある窓口

新規手続きで

たくさんの書類に記入

なのに

待つこと 十分

結果 オーライ

オレンジ色は

明るい未来の色

ぜくんぶ本部へ問い合わせる始末

未来が見えません

くたびれたわね

Hさん

と

わたし

8

心がつつぱる時こそ

セルフコントロールが

大切！

9

コーヒーポットが

しょんべんを垂れた

お尻を見ても

穴がない！

小野小町印？

10

ことばを

自覚的にとらえて

詩を書く

11

素戔嗚尊すさのおのみこと

天の岩屋戸

天照大神

八岐大蛇やまたのおろち

いまでも耳底にのこる

歴史に強かった

母の昔語り

12

(それは加齢による

筋肉の老化が原因かもしれません

ハイ

なにも言うことありません！

13

こんなに怠惰なのは

わたしがルーズだからだ

ウエストを締めるしかない！

14

わたしが忘れても

胃袋は覚えている

お袋の味

15  
相手に

ことばが届かない！

芯でとらえたことばは

読者が

心のミットに

16

「わだば ゴッホになる」

と言ったのは

棟方志功

「おらだば 水になる」

と言ったのは

矢代レイ

17

原爆は

落とさないと

落ちなかった！

18

食べた分だけ

詩が上達するなら

トコトン食べてやる！

目から

ことばを！

19

せめて

夢の中だけでも……

ここに

AI（人工知能）の虹をかける

20

戦争が嫌いな国も

本気で

戦争ごっこすれば――

怖い！



21

わたしは寅年

葍の心臓

友人はX年

象の心臓

踏みつぶさないでね

22

人間は

サル目ヒト科の動物

だから

時に

心を変貌させ

獣になる

23

こころを書く

そして

自分を知る

24

あゝ

消えていく

ハートマークが……

隣席の女の子

コーヒーカップのなかの初恋

ラテアート

25

だれだ

睡眠薬をもったのは！

オレに恨みでもあるのか！

あゝゝゝ 眠い

おやすみなさい

26

純粹で

まっとうで

香るような人

心が濾過される

27

あたしが心をほどいて  
横になると

あなたは

一枚いちまい脱がせて

人目にさらす

脱がせ上手な

推敲シジン

28

いきなり

「ふわっと えび味スナック」を

放りこむ

喉でふりふり

海老ダンス

豊かな風味が

口中にひろがる

三時のティータイム

29

目的は一緒

荷物は最小限

雑魚寝の山小屋

ここに記録する

星月夜

30

2 4 4 6 段の階段

を往復

わたし 66歳

翌日 練馬大根

翌翌日 桜島大根

翌翌翌日 御野場大根

あやあ

31

高齢者が

10年前に比べて

5〜10歳は若返っているらしい

じゃあ

30年後のわたしは

20歳？

32

ばかばかばかばかばかばかの

A T M

瞬時に

他行支払いに

チヨコレートパンが

消えた！

33

いいことはインプット

いやなことはアウトプット

これであなとも

健康美人

脳内美人は？

34

スッゴイ美人！

しなやかで

鼻筋が通り

鈴の声

年賀状を出した仲

人間だったら

君は最高サ

天国の

愛猫 花子！

## 【あとがき】

去る六月七日、「あきたの文芸」文芸講座があった。制限時間内に、「六行詩を書こう」という試み。わたしは不覚にも時間の壁に阻まれ、やむなく未完のまま提出。ひらめきも言葉を生み出す瞬発力もなく、頭が固いのを自覚した次第。真っ先に完成したのは、若い方であった。

時には時間の制約も、頭のストレッチにはいいのかな、と考えた。

なにはともあれ、わたしには詩を書く自由な時間がある。言葉を粘土のようにコネコネする、わたしだけの時間が、である。

\*

七月十五日、五所川原市の櫻庭美術館で、「歌&ポエムリーディング」があった。二十三回を数えるが、初めて参加した。しかし、今回でこの会は終わりという。この貴重な体験を、今後の活動に生かしたいと思う。

\*

「ピットインダウン」を創刊して二年が過ぎた。今号で10号を数える。皆様に感謝申し上げます。

## 第二回「ピッタの会」のご案内

講師に成田豊人氏をお迎えし、左記の通り勉強会を開催いたします。

演題は、「田中冬二、寺山修司、谷川俊太郎について少し」です。質問コーナーを設ける予定です。

ご参加をお待ちしております。

## 記

- ① 日時 九月二十日(水)
- ② 時間 午後一時～四時
- ③ 場所 あきた文学資料館
- ④ 申込 参加希望者は、九月十日(日)までに、矢代レイにご連絡ください。

☎ 090・1935・1180

